

# 甲斐市立竜王南小学校 自己評価書

令和4年2月4日（金）作成

校長 「長谷川 佳代」 記述者 職名（教頭）「飯塚 正規」

学校教育目標 「楽しい学校（楽校）の創造ーやる気 こん気 げん気ー」

## 学校経営方針

- ・「生きる力」をはぐくむ、教育課程の編成と実施
- ・「確かな力」をはぐくむ、わかって楽しい授業の創造
- ・思いやりの心や情操を培い、「豊かな心」をはぐくむ、居心地のよい学校（集団）の創造
- ・たくましく生きるための「健康な体」をはぐくむ、健康・安全な生活と環境の創造
- ・「信頼される開かれた学校づくり」の推進

## 1 全体評価

○自己評価の結果は、高い水準にあるといえる。

全39問中、肯定的評価（A・B）が100%となったのは、28設問であった。さらに、38設問において、肯定的評価が95%以上であることから、今年度も教育活動全体的に高い自己評価の数値となった。しかし、「ややそう思わない」Cをつけた設問が4設問みられ、Ⅱ学校運営についての「8 あなたの学校は、児童の健康管理について配慮がなされている。」でD回答が唯一あったことも注視したい。

また、児童アンケートの結果では、24設問中（勉強時間・就寝時間・読書時間・スマホの設問を除く）20設問において、肯定的評価（A・B）が80%以上である。特に「委員会活動にしっかり取り組んでいますか。」については、肯定的評価（A・B）が100%となった。一方、D回答とした児童の割合が5%以上であった設問が3設問あった。特に「今住んでいる地域の行事に参加していますか。」D回答が18.7%であった。」これは、コロナ禍で多くの地域行事が中止となり、子ども達の参加できる行事が減っていると考えられる。

保護者アンケートの結果では、23設問中（睡眠時間・読書時間・スマホ等の時間以外）14設問において肯定的評価（A・B）が80%以上である。特に「ご家庭では、家族で互いに挨拶をしていますか。」については、肯定的評価（A・B）が96.3%と最も高い数値となった。これは、児童会活動で取り組んでいるあいさつ運動の成果が家庭へも反映されていると考えられる。

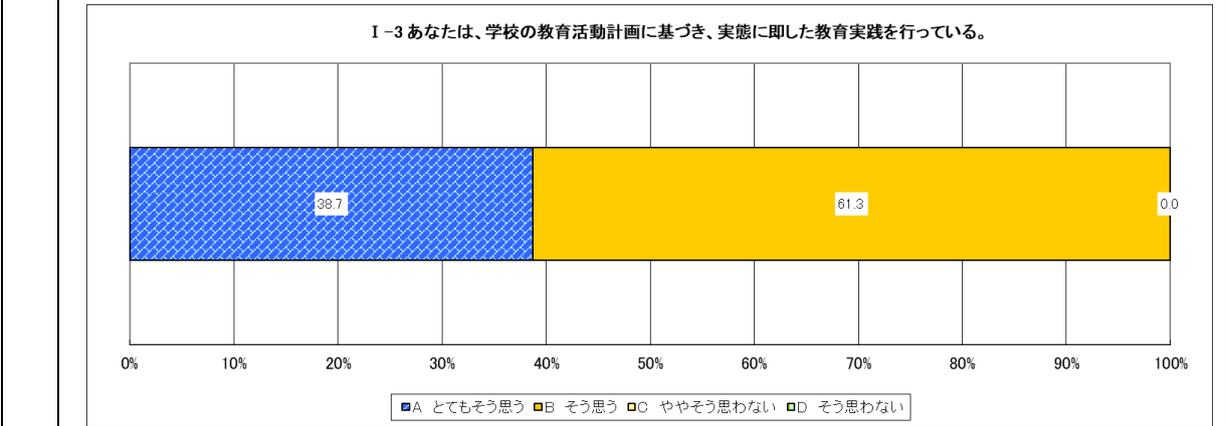
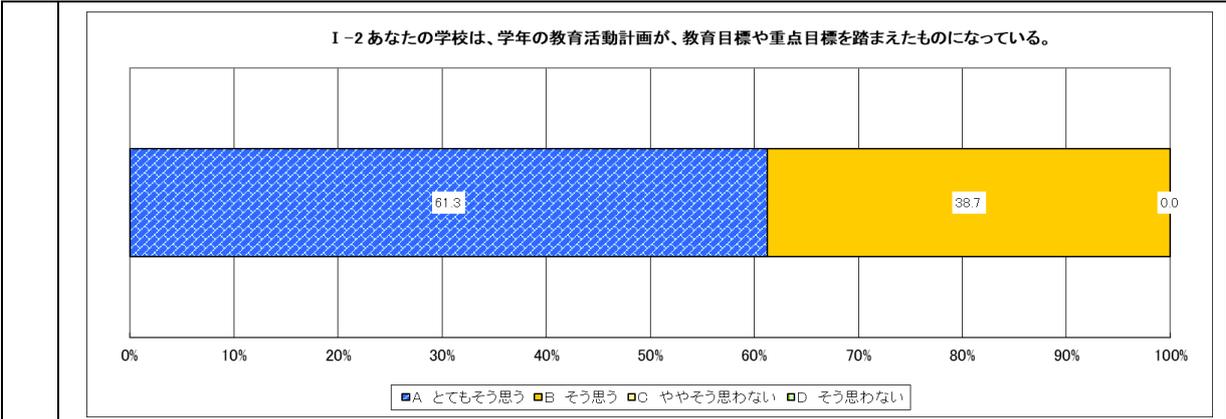
## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

### I 学校教育目標に関して・学校経営について

達成状況

学校教育目標・学校経営についての自己評価5設問中すべてにおいて、肯定的評価（A・B）100%となった。特に、「2 あなたの学校は、学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」については、Aの数値がBより大きい結果となった。

また、昨年度と比較して、総体的にA評価の数値は低かった。しかし、「3 あなたは、学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。」について、否定的評価であるCが、昨年度は3%あったことに対し、今年度は0%であった。



改善策

自己評価結果から、「5 あなたは、児童の具体的行動目標を意識して教育活動を行っている。」は、(A・B)で100%となっているものの、A評価は30%となっていて、昨年度の53.1%より低い値である。これは、コロナ禍における教育活動に、様々な制限があったためだと考えられる。限られた条件の中で、工夫しながら教育活動に取り組む必要がある。

II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

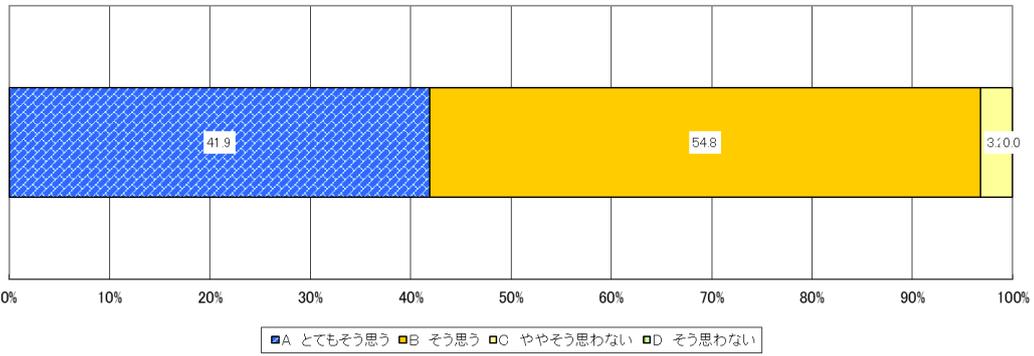
自己評価では、8設問中6設問で肯定的評価（A・B）が100%となった。特に、「1 あなたは、危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している。」「3 あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。」は、昨年度よりA評価の数値が向上している。ここから、コロナ禍において校長の指導のもと、教職員の危機管理意識が、さらに向上していることがわかる。また、学校運営の改善点を明確にしたことにより、教職員の共通認識が高まったと考えられる。

「6 あなたは、校務支援システムを十分活用できている。」という設問に対して、昨年度はC評価が6.7%であったが、今年度は肯定的評価（A・B）が100%となった。これも昨年度からの研修の成果が表れたと考えられる。

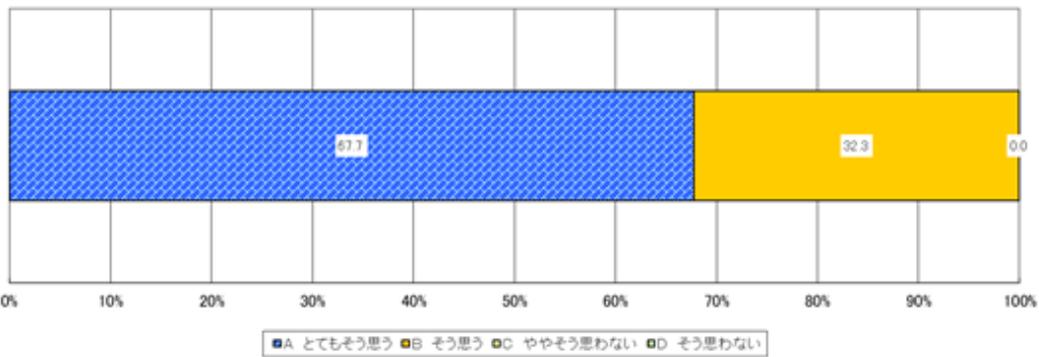
保護者アンケート「1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。」94.6%「6 授業参観や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている。」64.3%「8 学校は熱心に授業に取り組んでいると思う。」91.3%などの学校運営に関わる質問に対して、肯定的評価（A・B）が90%以上の数値を得ている。これらは、コロナ禍の制限が多い現在の状況においても、学校運営に対して保護者が好意的に理解を示しているといえる。

また、ICTを取り入れたことで、授業への評価が高まったと考えられる。

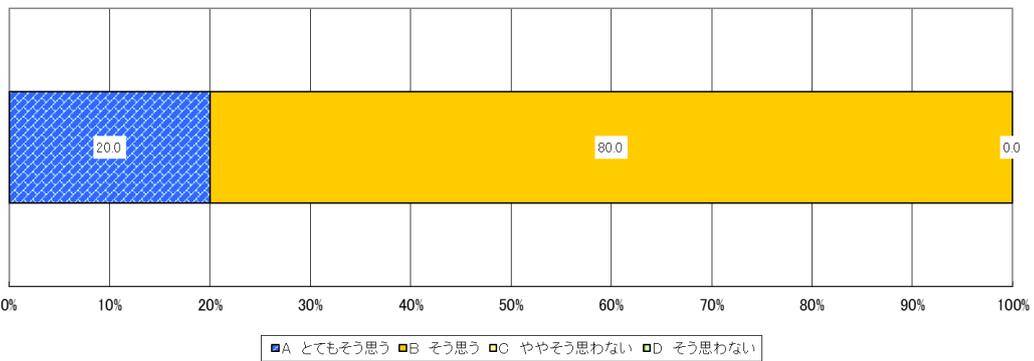
II-1 あなたは、危機管理マニュアル(防犯、防災、事件、事故等)を理解している。



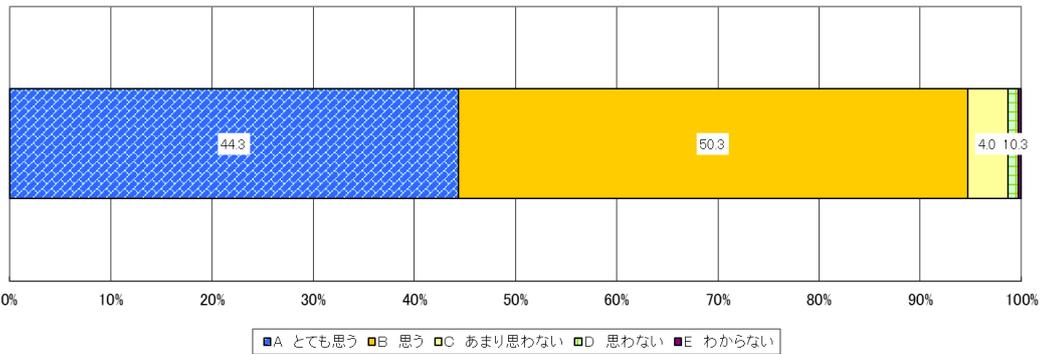
II-3 あなたは、他の教職員と連携して協働体制で、教育活動にあたっている。

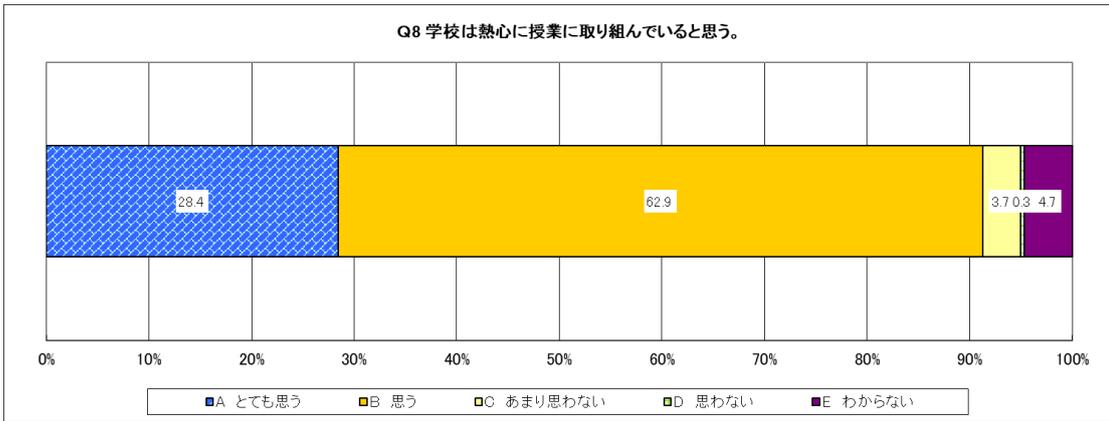
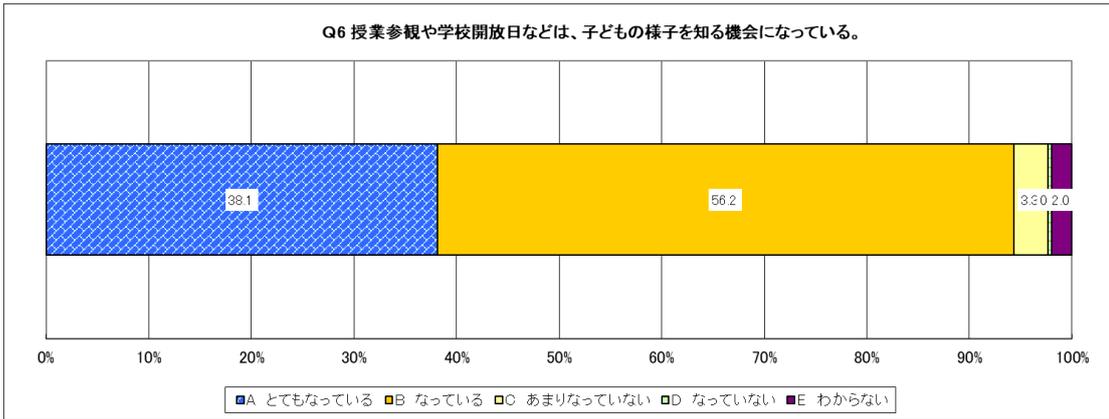


II-6 あなたは、校務支援システムを十分活用できている。



Q1 お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う。





改善策

「7 あなたは、業務の効率化等の働き方改革を意識して職務にあたっている。」という設問に対してC評価が6.7%である。教職員のタイムマネジメント能力の向上を目指して、研修の充実を図り、業務改善委員会などを通して具体的な改善策を検討していく。

### Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

自己評価では、7設問中3設問において肯定的評価（A・B）が100%である。残りの「4 あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」以外全てが90%以上の肯定的評価を得ており、概ね達成できている。

「主体的・対話的な深い学び」を目指す校内研の成果を活かしながら、授業改善に取り組んでいることがわかる。

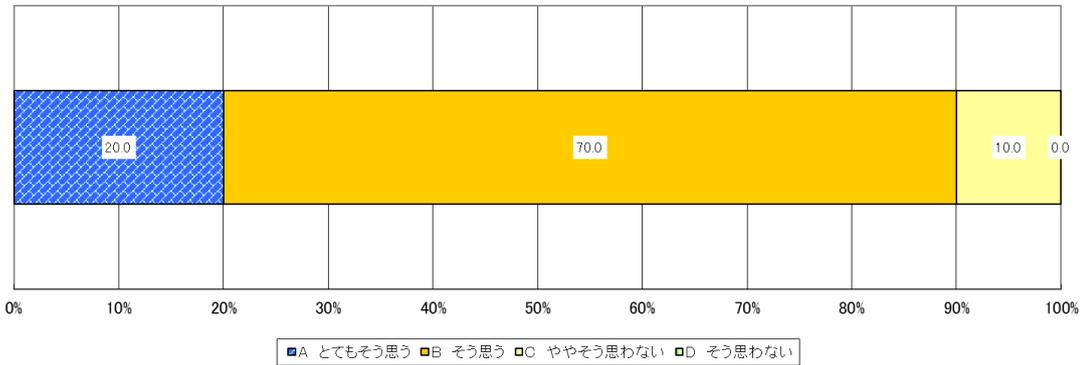
保護者アンケートでは、「9 お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。」の肯定的評価が86.4%と昨年度よりもさらに高い評価を得ている。

また、児童アンケートの結果から、「4 学校の授業は楽しいですか。」が92.9%で昨年度より4.9%上昇した。これは、コロナ禍における学ぶ機会の減少（分散登校）によって、児童が教室で友達と共に授業を受けることの大切さを知ったことも一因だと思われる。

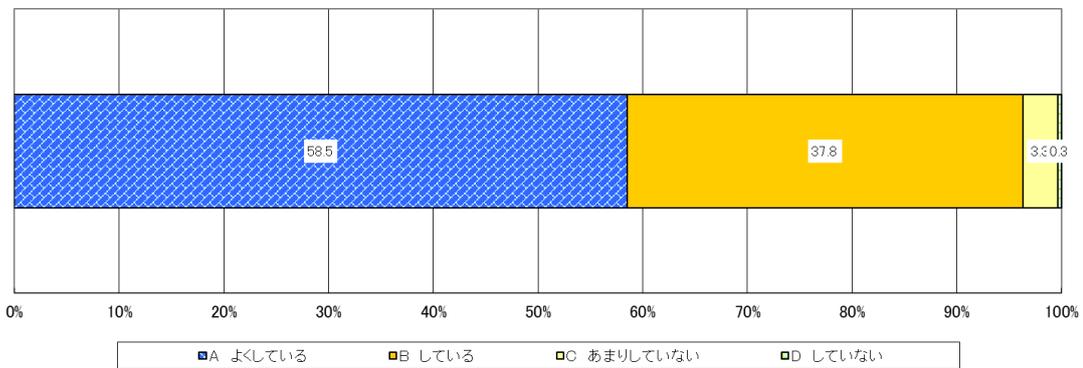


	<p style="text-align: center;"><b>Q9 お子さんは、授業の内容がわかっていると思う。</b></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>A とても思う</td> <td>B 思う</td> <td>C あまり思わない</td> <td>D 思わない</td> <td>E わからない</td> </tr> <tr> <td>18.7</td> <td>67.7</td> <td>8.0</td> <td>2.0</td> <td>3.7</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;"><b>Q4 学校の授業は楽しいですか。</b></p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>A とても楽しい</td> <td>B 楽しい</td> <td>C あまり楽しくない</td> <td>D 楽しくない</td> </tr> <tr> <td>51.2</td> <td>41.7</td> <td>5.4</td> <td>1.7</td> </tr> </table>	A とても思う	B 思う	C あまり思わない	D 思わない	E わからない	18.7	67.7	8.0	2.0	3.7	A とても楽しい	B 楽しい	C あまり楽しくない	D 楽しくない	51.2	41.7	5.4	1.7
A とても思う	B 思う	C あまり思わない	D 思わない	E わからない															
18.7	67.7	8.0	2.0	3.7															
A とても楽しい	B 楽しい	C あまり楽しくない	D 楽しくない																
51.2	41.7	5.4	1.7																
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">改善策</p>	<p>児童アンケートの「17 月曜日から金曜日までは、学校以外で学年の目標時間の勉強をしていますか。(※5年：60分、6年：70分)」の否定的評価は、23.2%となっている。校内研で取り組んでいる家庭学習習慣や自主学習の推進をさらに充実させる必要がある。</p> <p>自己評価「4 あなたは、ICTを効果的に活用した授業を行っている。」において否定的評価(C・D)13.6%であった。一人一台パソコンの導入により、ICT活用の充実が必須となってきたが、教職員間での技能の差が著しい。そのためICT担当を中心とした研修や情報共有をさらに進めていくことを目指す。</p>																		
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">達成状況</p>	<p><b>IV 生徒指導について (児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて)</b></p> <p>生徒指導についての自己評価は、6設問中5設問において、肯定的評価(A・B)が100%となった。「4 あなたは、キャリア教育(キャリア・パスポートの活用・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。」も、90%の肯定的評価を得ており、概ね達成できている。</p> <p>保護者アンケートでは、生徒指導に関わる設問全てにおいておおむね達成できている。特に「16 ご家庭では、家族で互いに挨拶をしていますか。」において、肯定的評価(A・B)が96.3%となり、昨年度以上の高い数値となった。</p> <p>児童アンケートでは、「12 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。」では、肯定的評価が昨年度より8.2%増加した。「15 清掃活動をしっかりしていますか。」は、97.6%と昨年度以上に高い肯定的評価を得ている。これは、児童会活動の無言清掃の継続的な取り組みの成果であり、集中して清掃活動を行うことへの意識の向上が考えられる。</p>																		

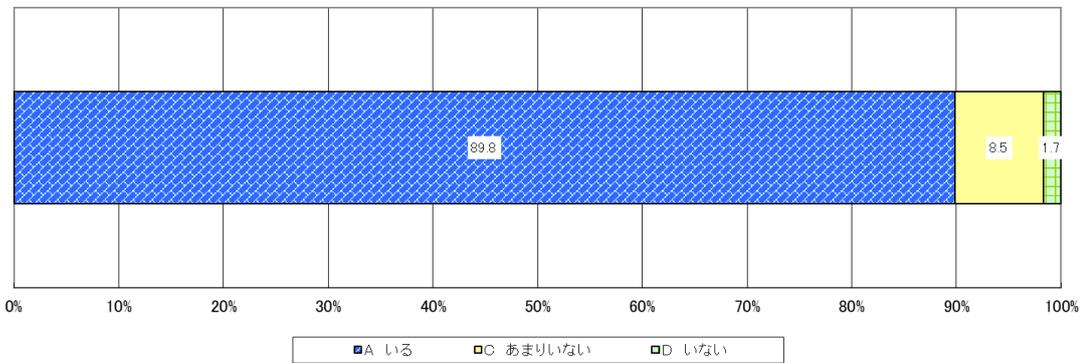
IV-4 あなたは、キャリア教育(キャリア・パスポートの活用・進路指導など)を児童生徒の実態に応じて行っている。



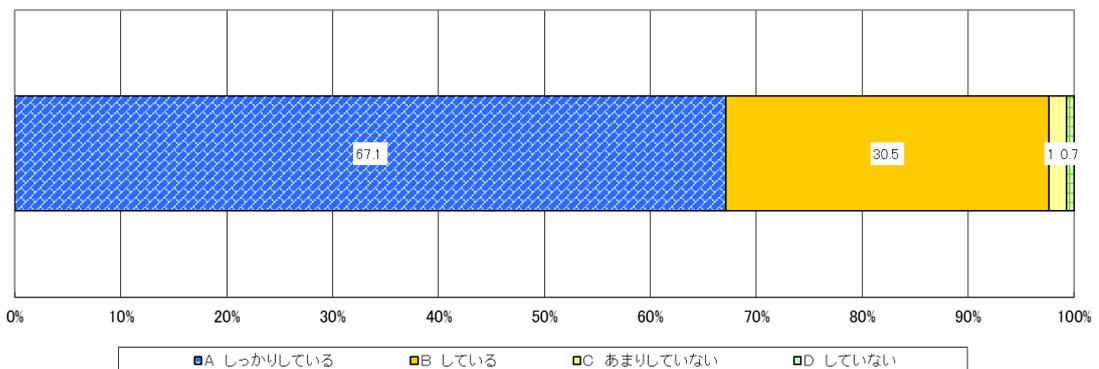
Q16 ご家庭では、家族で互いに挨拶をしていますか。



Q12 こまったことがあったら、相談できる先生がいますか。



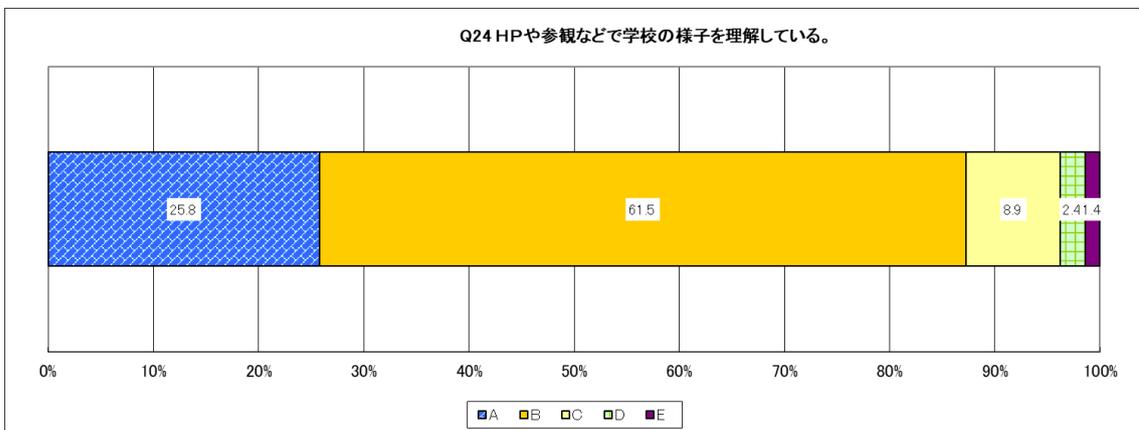
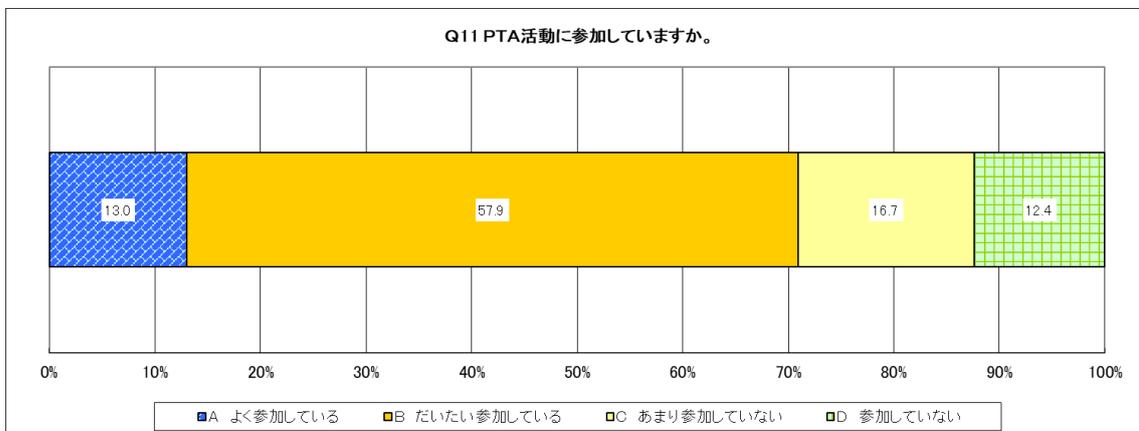
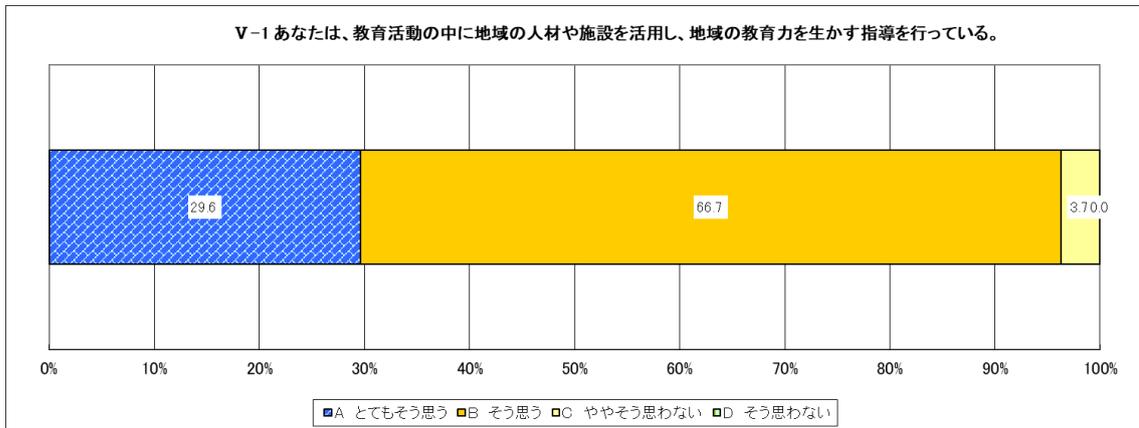
Q15 清そう活動をしっかりしていますか。



改善策 自己評価において、「4 あなたは、キャリア教育（キャリア・パスポートの活用・進路指導など）を児童生徒の実態に応じて行っている。」の肯定的評価（A・B）が100%ではなかったため、子ども達と触れ合う中でキャリア教育にアプローチしていくように努めていきたい。

## V 地域との連携について

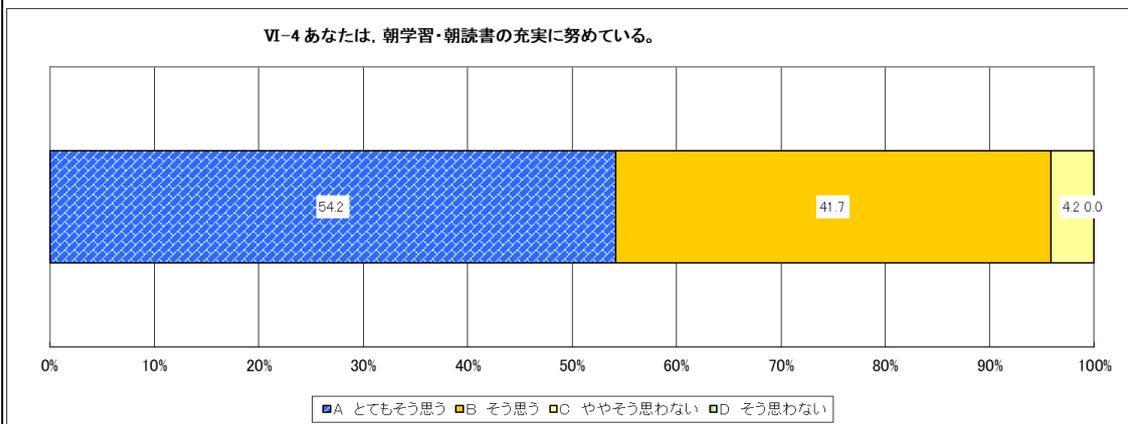
達成状況 地域との連携についての自己評価6設問中5設問で、肯定的評価（A・B）が100%であった。「1 あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている。」も、96.3%の肯定的評価を得ており、概ね達成できている。保護者アンケートでは、「11 PTA活動に参加していますか」の肯定的評価が70.9%、「24 HPや参観などで学校の様子を理解している。」の肯定的評価が87.3%と昨年度よりそれぞれ4.8%・0.4%の減少となった。これらは、コロナ禍により、PTA親子早朝作業の中止を始め、様々な活動の制限を受けていることが要因と考えられる。



改善策 コロナ禍では、地域における学校の役割は大変重要であり、地域の願いを汲んだ教育活動が求められている。その為には、地域ボランティアである「胞子の会」による田んぼや畑の取り組みを継続的に行い、今後も児童の学習に大いに生かしていく。  
さらに、保護者や地域の要望に迅速かつ丁寧に対応するために、自治会の会合等に積極的に参加していく。

## VI 学校の特色に関して

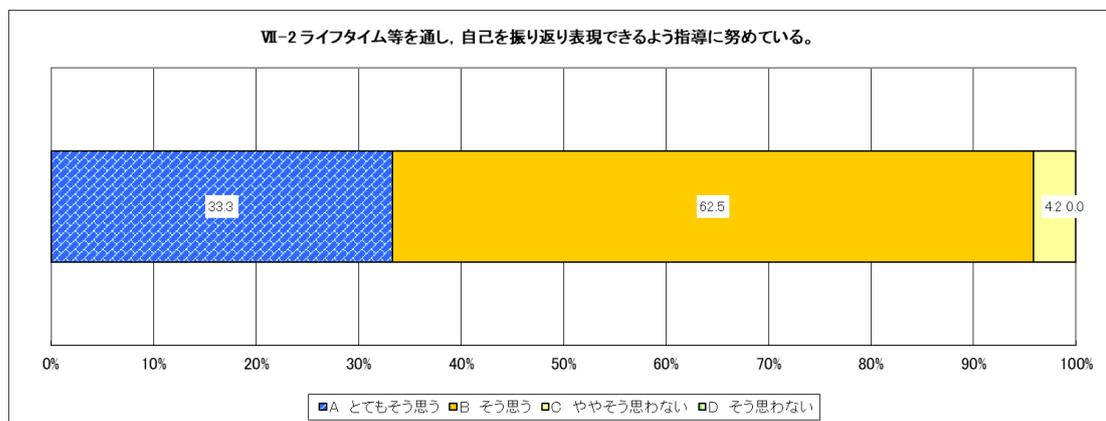
達成状況 学校の特色に関する4設問中3設問で肯定的評価(A・B)が100%であった。「4 あなたは、朝学習・朝読書の充実に努めている。」において肯定的評価(A・B)が95.9%と昨年度より4.1%減少した。これは、コロナ禍による朝の業務(健康チェック表の確認等)の煩雑化も要因の一つと考えられる。



改善策 朝学習については、全校体制で取り組むように共通理解を図る。その際、校内研で取り決めた共通の学習内容で進めていく。また、朝読書については、教職員が率先して朝読書をする姿を児童に示すことで朝読書の充実に努める。

## VII 創甲斐教育について

達成状況 創甲斐教育についての自己評価3設問中2設問で、肯定的評価(A・B)が100%であった。「2 ライフタイム等を通し、自己を振り返り表現できるよう指導に努めている。」も、95.8%の肯定的評価を得ており、概ね達成できている。



改善策	<p>やまなしスタンダードの徹底を目指し、教職員一人ひとりが日々の授業実践の中で基本的言語事項の習得のために授業改善に取り組んでいく。</p> <p>また、自己表現力を高めるために、校内研で取り組んだOPPシートの活用をさらに充実させていく。</p>
-----	---

### 3 まとめ

#### <成果>

教職員の自己評価では、すべての項目において、肯定的評価（A・B）が高く、全体的に達成できている。全教職員が学校教育目標達成に向かい、校長の学校経営方針の下に共通理解をして教育活動にあたっていることが確認できた。児童・保護者アンケートにもその成果が反映されていた。

#### <課題>

コロナ禍における教育活動には、今後も様々な制限が想定される。限られた条件の中で、具体的な改善策を模索し、教職員が協力して柔軟に対応していくことが課題となる。

また、学習指導に関しては次の4点があげられる。①ICT活用のさらなる充実②外国語活動への不安の払拭（児童及び教職員）③自主学习への取り組みの強化④授業改善に向けたより一層の取り組み

教職員が日々の教育活動の様子を家庭・地域に伝えるため、ホームページや学校だより等を活用して積極的に情報発信していく。

今回の結果を踏まえ、学校・保護者・地域の連携を図りながら、日々の教育活動の充実に努めていく。